

東部地区の活動をどう維持し、より発展していくか。微力ながらも努力をしている最中です。全体的な傾向かと思いますが、当地区にあつても、教職関係者の減少、情報保護問題等によって会員の把握が難しいことが課題となっています。そこで従来から行われています東部地区総会並びに退職者を囲む会とともに、平成二十五年より東部地区に会場を移した「全日本大学女子選抜駅伝競走大会」の応援を兼ね、管理職を中心とした懇親会を毎年行っています。

年末ではありますが、多くの方々にお集まりいただき、情報交換を行っています。参加者の数も年々増加傾向にあります。

東部地区では、活動の活性化のために出来る限りの具体的な活動計画をたて支援していくことを地区の活動方針に挙げています。学校関係者のみならず、一般企業等の会員とも連携を図り、より一層同窓会の結束を固めていきたいと思えます。

今後も、多くの皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。



中部地区長
静岡市立中田小学校
櫻田 人土 (昭55卒)

「活動活性化」の難しさ

中部地区長を拝命し、四代の会長のもとで仕事をさせていただいてお

ります。同窓会活動そのものについては、大学を卒業と同時に当時の静岡支部長でした長橋 勝先生から声をかけていただき小学校の取りまとめをしてほしいということで一役員として参加をさせていただいたのが最初でした。それから三十七年間同窓会活動に携わり現在に至ります。

柔道の田村涼子選手を迎えてのスポーツ講演会、エコパスタジアムで開催した体育実演発表会、藤枝の武道館で行った体操の田中理恵選手を迎えての実演会等、思い出に残る活動ばかりでした。常に諸先輩方の指導や役員のご協力により地区の活動が順調に進めていけていたわけですが、現在は自分の力の無さで地区の活動は停滞しているのが現状です。

学校現場は特にそうですが、若手が非常に少なく、同窓会活動も同様で現在、静岡支部・清庵支部・志穂支部ともに組織作りが大きな課題となっています。かつて静岡支部では、多くの若手がいて支部活動の中心として頑張っておりました。現在は、ベテランと呼ばれる方が多く、若手への切り替えが大変苦労をしているところなのです。

「活動の活性化」言葉でいうのは簡単ですが、そのためのエネルギーは莫大なものですが、日体大卒業生としての魂を継承しつつ活性化に向けてチャレンジをしていきたいと思えます。

日体大らしさを感じて



西部地区長
浜松市立河輪小学校
神谷 昇吾 (昭55卒)

昨年八月に卒業以来、初めてクラス会を行いました。私たちが、還暦を迎えたということで、一昨年から計画をし、大学構内で行いました。卒業以来、久しぶりに会う同級生が多く、思い出話をしながら学生時代を振り返りました。

同窓会は、深沢の校舎で行いました。私が通った頃の日体大のイメージはなく、校舎もきれいになり、大層な時代とともに変わっていると感じました。しかし、校舎内に入り、同窓会会場を探しながら歩いている時に、耳に入ってきた音や大学の雰囲気のようなものは、三十年前と同じように感じました。また、会場が分からなくて迷っていた時、近くにいた学生が声を掛けてくれ、会場まで案内してくれました。学生は、現代っ子で若々しい感じがしましたが、私が学生の頃に先輩や後輩と接した時と同じように案内されて、日体らしさを感じました。

大学も新しい学部が増設され、時代とともに変わってきているようです。校舎も新しくなり、学部も新設され、学生の様子も少しずつ変わり、時代とともに変わっていくのは仕方

がないことかもしれません。しかし、日体大の卒業生にしか分からない、日体らしさ的なものはずっと続いていてほしいなと感じました。

そして日体大を卒業した同窓生である私たちも、同窓会活動を通して、その時代に対応した活動や新しい取り組みをしていかなければならないと思います。そして、私が感じた日体大らしきものはずっと続いていくことを願っています。

心温まる御縁



静岡同窓会保護者会長
瀧本 正紀

日本体育大学静岡同窓会の皆様には日頃から保護者会活動へのご理解とご協力をいただき、紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

このたびは保護者会会長を務めさせていただく御縁に恵まれました。思い起こせば入学して間もなく保護者会総会の案内状が届き、何という思いもなく他の保護者の方々とお話するのも面白そうだなあと感じて出席したのがきっかけでした。微力ながら何かのお手伝いができればと思ったことが始まりでした。

箱根駅伝や富士山女子駅伝の応援では、母校の誇りを胸に駆け抜ける選手や熱気あふれる応援団の姿に深い感動を覚えました。沿道にはため